

自分タイムによるこそ

—第3学年の実践から—

柏木俊明

1. 3年生の自分タイムについて

3年生になると、総合的な学習が始まる。その中で、自分タイム領域では、自分で課題を見つけ、課題について自分自身で追究していくことをねらいとしている。この追究する過程を通して、学習の仕方を習得したり、自分を深く見つめたりして、新たな自己発見や創造をすることができる考える。

子どもたちは、様々な事象に対して興味や関心を持っており、また同じ事象に対しても、子どもによっては興味関心が随分違っている。こうした実態の中で、3年生の子どもたちは、自分自身でどんな課題を設定すれば良いかを決めなくてはならない。だが、3年生にとって、自分タイムそのものが初めてであるから、見通しをもつことも難しい。そのため、課題を決めることも迷うであろうと予想される。3年生の段階では、まずこの課題を決めることが、追究への第一歩であり、窓口であるため、大事にしていきたい。

ここで、始めに決めた課題は、追究していく中で、子どもにとって高度な課題であったり、追究方法が分からなくなったりして、課題を変える場合も出てくるであろう。その時は、課題を変えた理由や、新しい課題でどんなことをしたいのかをはっきりさせておく必要があると考えている。そうして、より良い課題を見つけ追究する経験を持つことで、次の学年の自分タイムへも生かされていくと考えている。

2. 活動の実際

(1) 自分タイムにかかわる児童の実態

これまでに、子どもたちは太田川探検や元宇品探検など生活科の中で、自分がしてみたいことや、やってみたいこと課題とし、追究しようとしてきた。また、3年生になって、太田川探検でもやってみたいことを自分で決め、追究し、まとめを行ってきている。

さらに、全校朝会の中で、副校長先生から自分タイムの話聞き、自分タイムに対するイメージを少しもつことができていた。そこで、自分タイムの導入では、やってみたい意欲を持たせると同時に、自分で課題を見つける事がまず大切だということに気づいてほしいと考えた。

(2) 自分タイムの導入

① 昨年度3年生での自分タイムの紹介

自分タイムがどんな領域なのかについて、子どもたちなりに見通しをもつために、今の4年生に、昨年度の自分タイムの様子について、教室に来てもらい教わった。教わった内容は、

- けん玉が上手になるには
- 動物調べ
- 野球について
- 釣りについて
- 編み物について

であった。これらの内容から、子どもたちは、

- やってみたいことをする
- 記録を残す
- 図鑑などで調べる
- 好きなことをする
- 書き加えなどして何かにまとめる
- 分かりやすくする

○写真を撮ったりする

○練習する

など

のように、自分タイムに対してイメージをもち、何を自分タイムで行っていけば良いか見通しがもてたようである。

② 保護者の方の特技、公民館サークルの紹介

今回の導入では、子どもたちの興味関心を拡げていくために、先に支援を申し出てくださった保護者の方の中から、トールペイントとフルートの紹介をしていただいた。

今まで、何げなく見たり聞いたりしてきてはいるが、実際に自分の目の前で、作品を見せていただいたり、曲を聞かせていただいたりすると、インパクトは大変大きかったようである。思わず歓声をあげたり、拍手したりしていた。これらのことを課題として、追究してみようと感じた子どももたくさんいた。

さらに、学年の始めに、社会科で公民館について学習した。その時、公民館のサークルを見学させていただいている。このサークルを生かしていけることを子どもたちに知らせた。支援を頼む先として、学校以外の場もあることが分かったようである。

(2) 課題の決定

これらの、自分タイムに対するイメージから、子どもたちは、次のような課題を決定した。

○一輪車…………… (7人)	○編み物…………… (6人)	○トールペイント… (4人)
○フルート…………… (3人)	○手話…………… (2人)	○絵…………… (2人)
○バレエ…………… (2人)	○竹馬…………… (1人)	○ジャグリング…… (1人)
○バスケット…………… (1人)	○サッカー…………… (1人)	○ペイント…………… (1人)
○体を調べる…………… (1人)	○機織り…………… (1人)	

これらの課題の決定は、一人で課題をやり切ろうと決めた課題もあるが、友だちと一緒にやってみようとした課題もある。課題について、自分たちが具体的にどのような方法で、追究していくのかを、ワークシートにまとめた。自分自身が、どのように進んで良いかよく分からない場合は、教師の方から言葉かけをすることで、当面の方向性をもつことができた。

(3) 前半追究

まず、前半の追究である、追究は6時間ほど追究を終わった所で、前半とした。ここまでの追究を行って、それぞれ自分なりの課題をしっかりとつもりではいたが、追究を具体的にやっていくにつれて、やはり課題を変えたいという声が出てきた。前半までに、課題を変えた子どもは13人いた。その理由は、まず課題を追究していこうとした時に、

- ・課題に難度が高い。
- ・課題に対して興味が薄れてしまった。
- ・他の課題が追究したくなった。

であった。

課題を変えた中の多くは、1度変えただけであったが、6人の子どもは3～4回課題を変更していた。そうした中で、自分の課題がはっきりと決まったようである。やはり、子どもはそれぞれの課題を良いと思って決めているのではあるが、やり始めてみないとまだ分からない部分もたくさんあるために、このような変更がどうしても必要になってくると考えられる。

この追究の中で、子どもたちは「家でおばあちゃんに教えてもらったんよ。」とか、動物や鳥の追究をする子どもは学級全体に、



写真をもって来てもらうように呼びかけるなど、しっかり課題を意識して追究を行っていた。

トールペイントやフルートを追究しようとしている子どもは、保護者の方に来ていただき、塗り方や吹き方などを教わっていた。子どもたちも熱心に活動していたし、保護者の方も日ごろ見られない部分を見る事ができたと喜んでおられた。他の課題を追究する子どもにとっても刺激になった。

(4) 前半での振り返り

前半を終えて、自分タイムについて、それぞれ振り返りを行ってみた。

Q 課題を自分なりに見つけることができましたか。

とてもできた……………21人
できた……………12人
あまりできなかった……………4人

おおむね、自分自身の課題を見つけたことに満足をしているようである。ここで、あまりできなかったと答えたのは、何度も課題を変えた子どもであった。しかし、最後に決めたのは自分自身で納得できた課題と感じているようで、何度も変えた子は、最後には課題を決めることができたと感じていた。その他、早くから決めていたにもかかわらず、ずっとその課題追究をして、思っていた追究とずれを感じている子どもは、課題の決定がよかったか振り返っていたようである。

(5) 後半追究、発表へ

これらの、振り返りから後半へ向けて、もう一度追究がうまくいくように、教師側から支援し再度追究することとなった。自分たちの、追究して行く内容をどうまとめたり、発表していったりするか見通しをもって行うこととした。

3. 実践をふりかえって

(1) 自分タイムへのイメージ作りについて

3年生に、自分タイムとは何か、どんなことをしていけばいいか見通しを持たせ、楽しみながら追究できるようにしていくことは、とても大切だと考えている。実践してみると、自分タイムはほとんどの子どもが、楽しいと振り返りで答えていた。さらに、自分自身に合った課題を見つけたことができた子どもの満足度は高かった。自分タイムに良いイメージをもち、またやりたいと感じているようである。4年生に来てもらったり、保護者の方に来ていただいた事は、3年の子どもたちには大きな支援であったように感じる。隣接学年の経験をしっかり学ぶことで、刺激も大きく、4年の学びも生かせるようだ。さらに、トールペイントやフルートなど保護者の方に教えてもらうという場面を作ることで、日頃、学校ではできない場面ができ、子どもの追究意欲を大きく拡げることができた。

(2) 課題設定・課題追究について

子どもの個々の課題設定は、とても大切であると感じた。自分自身の興味と追究できる環境がそろった良い課題に巡り会わないと、良い追究は生まれて来ない。一度満足のいく課題に出会うことができれば、生き生きとして、追究することができるように感じた。また、追究がうまくいかなかった場合、そこでどのようにしたら追究がうまくいくのか考えることも、自分タイムでの良さではないかと感じた。こうした学習の仕方を学ぶことは、これから将来にわたって大変必要になってくるであろう。

さらに、学校だけでなく学校外の活動も大切になってくるように感じている。保護者の方に来ていただき、追究していく環境を整えていくことも大切である。3年生にとって、始めの課題設定からいねいに自分タイムを進めていくことが、実りのある自分タイムになると感じている。